



はて？ 裁判所はどこを向いているのか

人権と平和に背を向ける司法

日時 2024年11月30日(土) 午後1時～午後5時30分

場所 全国町村会館ホールB(東京・永田町)およびオンライン(ZOOM)

参加費 全国町村会館・1000円(学生・院生・修習生500円)※コーヒータ
オンライン参加・無料

主催：日本民主法律家協会

共催：自由法曹団・青年法律家協会弁護士学者合同部会

協賛：全司法労働組合

参加申込み方法

- ◆メールに、氏名・連絡先・参加方法(オンラインまたは全国町村会館)を明記のうえ、info@jdla.jp(日民協本部事務局)までお送りください。
※オンライン参加の方には、集会前日に参加用URLとレジユメ等をお送りします。
- ◆右のQRコード、もしくは、<https://x.gd/HzGTJ>からお申し込みができます。



会場案内



全国町村会館

東京都千代田区永田町 1-11-35

TEL 03-3581-0471(代表)

03-3581-6767(会議・宴会直通)

〈地下鉄でお越しの場合〉

- ◆有楽町線・半蔵門線・南北線
「永田町駅」3番出口徒歩1分
- ◆丸の内線・銀座線
「赤坂見附駅」徒歩8分

<お問合せ先>

日本民主法律家協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-4 AMビル2F

TEL 03-5367-5430 FAX 03-5367-5431

Mail info@jdla.jp HP <http://www.jdla.jp/>

第54回 司法制度研究集会の ご案内

司法の現状を見るにつけ、多くの市民は、NHK連続ドラマ「虎に翼」の主人公の口癖ではないですが、「はて？」と大きな疑問をいだくことでしょう。市民と法律家の長年にわたる裁判内外での取り組みにもかかわらず、司法は、被害者の被害回復や少数者の権利擁護のための機関となりえていないばかりか、民主主義、立憲主義をも破壊する動きに加担しているようにも見えます。

そこで、これまでの日本民主法律家協会での「司法改革」の議論を振り返り、司法の独立について民主主義・立憲主義の観点から、広渡清吾氏の基調講演をお聴きします。そして、全国各地の裁判所でたたかわれている代表的な訴訟のうち、原発訴訟、沖縄辺野古訴訟、生活保護費引下げ訴訟、安保法制違憲訴訟の4つの事件を踏まえ、司法の現状とその改革の展望について検討します。

「人権と平和に背を向ける司法」からの変革を展望する集会とするため、ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思ひます。



第54回司法制度研究集会

はて？ 裁判所はどこを向いているのか——人権と平和に背を向ける司法

プログラム

12:30 開場／オンライン受付開始

13:00 開会

13:05 講演

**「司法の独立と
民主主義・立憲主義**
——日民協の議論を踏まえながら展望する」
広渡清吾 氏（東京大学名誉教授）



専門はドイツ法、比較法社会論。著書に『社会投企と知的観察—日本学術会議・市民社会・日本国憲法』（日本評論社）、『学者にできることは何か—日本学術会議のとりくみを通して』（岩波書店）、『ドイツ法研究—歴史・現状・比較』（日本評論社）、『比較法社会論研究』（同）など。

14:05 質疑応答

～休憩5分～

14:35 各事件から見る裁判所の問題点

① 原発訴訟

樋口英明 氏
（元裁判官、
大飯原発差止を
命じた判決時の
福井地裁裁判長）



② 辺野古訴訟

白藤博行 氏
（専修大学名誉教授）



③ 生活保護基準引下げ訴訟

小久保哲郎 氏
（弁護士・
大阪弁護士会副団長）



④ 安保法制違憲訴訟

山本志都 氏
（弁護士・
安保法制違憲訴訟・女の会）



～休憩10分～

15:45 パネルディスカッション、
会場との討議

各事件の報告者
コーディネーター：宮腰直子 氏（弁護士）

17:15 まとめ

17:30 終了予定